

IT・設備のワンストップ保守

- ・マテリアルハンドリング設備の故障リスクを定量的に評価し、定期的に保守計画を見直すことで配送センターの安定稼働と保守費用の見える化を支援
- ・保守・保全の計画と実施、予備部品の在庫、障害履歴の管理を代行・支援
- ・リスク診断エンジニアリングを提供することで設備に関わるリスクと費用の適正化・平準化を支援

お客さまの課題

- ・日々、全国の小売業顧客へ製品を供給するお客さまの配送センターにおいては、配送作業を止めないことが経営課題であった
- ・しかし、コスト面から保守員の常設は困難であり、また、コンベアや仕分機などのマテリアルハンドリング設備が老朽化していることから、停止リスクが高くなっていた
- ・そこで、お客さまはリスク低減策の導入による設備の安定稼働を目指していた

データ価値化の流れ

データ収集

- ・搬送設備構成データ（部品構成、レイアウトなど）
- ・搬送業務データ（搬送物形態、搬送頻度、操業時間など）
- ・搬送設備の部品データ（推奨交換時期、価格など）
- ・保守実績データ（作業内容、交換部品、交換時期など）
- ・配送業務停止時のリスク（故障時の影響[対策人員、対応時間]等）

データ分析

- ①障害時の運用リスク診断 : 搬送ルート of 設備毎に障害発生時の影響箇所と代替運用を調査し、代替運用におけるリスクを評価
 - ②部品交換サイクルの設定 : 代替運用のリスク及び設備の部品特性レベルに応じた部品交換サイクルを定義
さらに、搬送ルート of 設備毎に部品交換サイクルを設定
 - ③長期保守計画の策定 : 分析ツールを利用して部品交換時期を自動的に算出し、長期保守計画を策定
- ①～③を定期的(1年ごと)に繰り返すことで保守計画を継続的に見直し

データ価値創出

- 設備毎の保守サイクルに合わせた保守の実行で下記を実現。
- ・設備停止時のコスト低減（緊急対応による設備修理費、物流作業費、商品配送費、商品廃棄費用）
 - ・逸失利益（販売機会ロス、顧客からのペナルティ請求）を抑制

導入実績のある業種

- ・製造業のお客さまの自社配送センター